

溶融スラグを使用するスタビライザ工法について

溶融スラグを使用するスタビライザ工法は、車両が通行すると轍のできるような軟弱地に溶融スラグとその水硬性を促進するアルカリ刺激剤（セメント、消石灰など）を混合し、地盤の支持力や強度を高めるものです。

配合は現地土のCBR(室内)試験をして決定されますが、以下のような配合例があります。

改良厚 30cmに対して、スラグ敷設厚 10cm + セメント系固化材 3% (重量比)

このような改良をした地盤では、植物の根が張りにくく、芝草のような匍匐性のある植物が優勢になることが観察されています[※]。副次的ですが防草・防塵効果が期待できると考えられます。

[※]西部清掃工場更新用地(隣接駐車場) 施工後5年経過、西部清掃工場内の下層路盤試験施工箇所

溶融スラグを使用するスタビライザ工法の施工例

① グレーダーによる溶融スラグの敷均し



② スプレッターによるセメント系固化材の散布



③ スタビライザーによる攪拌混合



④ グレーダーによる整正



⑤ タイヤローラーによる転圧

